

社会福祉法人ひまわり福祉会すくすく教室 児童発達支援事業 支援プログラム

支援理念 「利用者・保護者・職員、みんなが笑顔絶やさない」



- 支援方針 (1) 個別療育で個々への支援を実施し、小集団支援で社会性やコミュニケーションを学ぶ場を提供する。
(2) 家族への相談援助や関係機関との連携を実施し、包括的な支援を行う。

作成日 令和6年4月1日

営業時間 10:00~18:00

送迎実施 有



健康状態

<健康・生活>

健康状態の維持・改善、基本的生活習慣の習得、生活リズムの形成の支援方法を考える。「睡眠」「食事」「排泄」を身に付ける方法や楽しい食事への配慮（感覚、そしゃく、姿勢等）を支援する。遊びや日常の学習機会を利用した支援、環境配慮を工夫する。

心身機能・構造

<運動・感覚>

「運動機能」「バランス感覚」「力の強弱」「距離感」「様々な身体感覚・感触」に触れ、感覚の成長を支援する。身体感覚は、力加減や身体の動きをコントロールするだけでなく、気持ちやテンションのコントロールにも役立つ。

<認知・行動>

特性に合わせて、どのような方法、どのような環境設定であれば円滑に学習できるかを模索し支援する。また、「着席」「大人をよく見る」「少し嫌なことでも頑張ってみる」など、課題に取り組む姿勢や力が身に付くように関わり方や内容を工夫して支援する。

活動

<言語・コミュニケーション>

「要求」「報告」「聞く」「模倣」「観察」など、自分も周囲の人も大切にコミュニケーションを学ぶ。言葉だけでなく、ジェスチャーやカードなど、その子に応じた方法を一緒に考える。



参加

<人間関係・社会性>

SST（ソーシャルスキル）の習得を目指す。「順番交代」「役割」「ルールを守る」「指示に沿った行動をする」など、社会に適應するために必要なスキルの習得を支援する。また、「感情に気付く」「感情に名前を付ける」「対処法を考える」など、気持ちをコントロールする練習をする。



個人因子

<体験・経験（行事等）>

- 個別療育・小集団支援
課題 運動 制作 視写 振り返り 発表 挨拶など
- 土曜日行事
とことこ、日帰り遠足、ハイキング、クリスマス会、地域交流納涼大会、地域交流もちつき大会など

環境因子

<家族支援>

送迎時の会話、連絡ノート、ラインなどで随時情報共有をするとともに、必要に応じて面談や参観する場を設け、不安や困りごとへの相談援助を行う。



<移行支援>

園や医療・福祉施設との情報交換や担当者会を行い、包括的に支援を行える環境を作り支援する。

<地域支援・連携>

地域イベントや地域交流納涼大会・もちつき大会などの行事への参加を通して、地域との交流が深まるように支援する。

<職員の質の向上>

外部・内部研修への参加、OJTの推進

